

保育指導法の研究	1年 後期	講義2単位	担当教員名	齋藤 寧
	卒選 幼必 保必			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① テーマ： 子どもの豊かな活動・経験を援助するための保育の方法について学ぶ。</p> <p>② 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの豊かな活動・経験を援助するために保育者は子どもにどうかかわっていくかを理解する。</li> <li>・ 保育の多様性をとおして、保育の工夫についての理解を深める。</li> <li>・ 乳幼児期の子どもにとって大事な遊びや生活についてみる目を養う。</li> </ul>				
<p>授業の概要</p> <p>活動的、行動的存在である子どもが、自由に活動できる保育所（園）や幼稚園において、保育者の役割は、子どもの興味・関心を誘発する環境を構成し、様々な刺激を与えながら、自己活動を引き出すことである。そのことにより、子どもが生み出した自己活動をねらい（保育内容）の方向に向けて、発展させる方向について検討していく必要がある。そのことを踏まえ、豊かな保育実践を展開するための保育の方法・指導法について学習する。</p>				

授業計画

コマ(回)	項目	内容
1	講義内容について	・講義内容の概要についての説明
2	保育方法の基本について	・保育方法の原理
3	乳幼児の理解と保育方法	・子どもの内面的な理解と方法、子どもの発展的な理解と保育
4	環境による保育	・子どもにとって環境のもつ意味と環境構成について
5	遊びによる総合的指導	・遊びとは何か ・遊びを通しての総合的指導 ・遊びの生成と展開
6		
7	遊びで得るもの・学び	・遊びで得たことや学んだこと（課題）
		・園庭や遊具の設置等の工夫（グループ討議）
8	子どもにふさわしい園生活の展開	・幼児にふさわしい生活の展開 ・柔軟で多様な保育形態
9		・一日の生活の展開
10	保育における個と集団	・集団の育ちと個の育ち・一人ひとりの良さが響きあう保育
11	発達の時期に応じた保育のあり方	・入園当初、園生活に慣れてきた時期の保育
		・仲間と協力して生活する時期、卒園前の時期の保育
12	行事を生かした保育の展開	・園生活の中の行事と行事の計画について
13	家庭・地域・小学校との連携を生かした保育	・家庭・地域に開かれた地域との連携が生かされた保育
		・小学校との連携が生かされた保育
14	様々な工夫が求められる保育	・障害のある子ども、外国人の子どもの受入れと保育（事例検討）
15	保育者の成長と保育実践の深まり	・保育者の成長と省察、研修について
定期試験	15コマ終了後実施する。	
テキスト	「保育の方法・指導法の研究」ミネルブヴァ書房	
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針	
教員の評価方法	学習への関心態度（10%）、課題・レポート・提出物状況（20%）定期試験（70%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備（テキストの次回講義内容箇所の通読等）	